

【91】 校長だより 第74回卒業証書授与式 校長式辞 040305

木々の芽吹きに、春の息吹を感じる季節となりました。皆さんを祝福する素晴らしい晴天。春一番の声も聞こえ、桜の開花も楽しみです。

本日、ここに、神奈川県立厚木東高等学校、第74回卒業証書授与式を挙行するにあたり、本校PTA、常盤会など、準備に多大なるご協力をいただきました全ての皆さまに深く感謝申し上げます。

ただいま271名の卒業を認めました。74期生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、様々な制限があり、思う通りに行えないことは残念ですが、今年度も何とか保護者の皆さまをお招きすることができ、子どもたちの旅立ちを共に祝えること、大変喜ばしく思います。

担任の呼名に返す「はい」の返事に、それぞれの思いを込めて立ち上がるお子様の晴れの姿をご覧になり、今日の日を迎えられた保護者の皆様のお喜びと感慨は、ひとしおのことと拝察いたします。とりわけ長期にわたり健康管理と感染防止対策に心を配り、不自由な進路活動を見守り続ける気の抜けない日々のご苦労、これは並大抵のものではなかったことでしょう。皆様の愛情あふれるサポートに敬意を表しますとともに、本校がこんにちまで皆様に賜りましたご支援とご協力に改めて熱く御礼申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、3年前入学式で私は、みなさんに「3つの力を身につけて欲しい」という話をしました。①百年の生涯を学び続ける「自学力」②人と繋がり社会に貢献する「人間力」、そして③困難に負けずより高い目標に向かう「挑戦力」、この3つの力です。また、自分の命も人の命も大切にしてほしい、だから全員と仲良くならなくてもいいけれど、相手のことを思いやれる人になってほしい、人間関係の困難を通して成長してほしい、とお願いしました。令和という新時代の幕開けとともに希望に満ちて高校生活をスタートした皆さんが、大切な青春の2年間に渡りコロナ禍に見舞われ、まさしく「命の危機」に対応することを余儀なくされ、皮

肉にもこんなにも特大サイズの苦しい成長の機会に遭遇することになるとは、いったいだれが想像したでしょうか？



目標として日々切磋琢磨していた、部活動の大切な大会の中止、あこがれの先輩のリードのもと活躍するはずだった2年時の体育祭の中止、楽しみにしていた修学旅行の2度にわたる中止、いくつもの大きな失望と落胆が皆さんに襲いかかりました。そのような中においても、皆さんは、勉学部に部活動に学校行事にと、今自分たちにできることは何かと、必死に考え続けました。仲間と共に切磋琢磨しながら、真摯に自己を見つめ、激変する社会にあって、自分は何をして生きていくのか？という、自立への問いに答を求めて、模索の旅をしてこられました。進路探究活動における苦労も相当なものだったでしょう。

特にこの2年間みなさんには「今はできないこと」がたくさんありました。しかし同時に、「今しかできないこと」、制限の多い「今だからこそ出来たこと」も沢山ありました。その最たる例が、3年生に進級した皆さんが中心となって創り上げた素晴らしい体育祭や文化祭であり、多くの部活動が困難に打ち勝ってあげた、輝かしい成果でした。学習面でも Google Classroom や Meet などによるオンライン授業など、ICT 利活用能力を格段に伸ばしたのも皆さんでした。本当に誇らしいことです。また、今まさに最後の追い込みにある一般受験挑戦者の皆さんにも、その頑張りをお祝いし、職員一同とともに、大いなるエールを送りたいと思います。

ITやAIが私たちの暮らしを動かす時代がやってきました。そこに予想もしなかった新型コロナウイルスの感染拡大が加わり、社会全体の変化が加速しています。正に時代の過渡期に立たされている皆さん、皆さんは今日の卒業の日をどのような気持ちで迎えているのでしょうか？ 今、皆さん一人ひとりに達成感はあるのでしょうか？ 3つの力は身についたのでしょうか？ 生涯の友には出会えたのでしょうか？ そして今、この瞬間に、東高に来てよかった、3年間で成長した！と言えるような自分を、感じられているのでしょうか？

卒業の善き日に、皆さんにご紹介したい、私の尊敬するあるお医者様がいます。2017年に105歳で亡くなるまで聖路加国際病院の名誉院長として生涯現役でご活躍なされた、日野原重明先生です。日野原先生は、日





本で初めて人間ドックを開設した医師で、かつては「成人病」と言われていた心臓病や脳卒中などの病気に「生活習慣病」という新たな名前をつけた方です。1995年の地下鉄サリン事件の際には、院長として通常業務を全て停止して聖路加国際病院を開放する英断を下し、無制限で患者を受け入れました。外国で災害時の医療を学び、予測不能の危機に備えて整えてあった広いロビーや、廊下やチャペルにも設置してあった酸素供給装置を使って、640人の治療の陣頭指揮を執られました。83歳の時でした。

また、子どものいじめや自死に心を痛め、90歳ごろから多くの小学校をおとすれ『いのちの授業』をなさいました。子どもたちに向かって、「いのちとは君たちが持っている時間なんだよ。」とおっしゃり、「一度しかない自分の時間をどのように使うかしっかり考えながら生きていって欲しい。さらに言えば、その命を今度は自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。」と熱く語られました。

日野原先生はこうもおっしゃいました。「人生には無駄というものはないもの。しかし、後にならないと、その意味がわからないということがたくさんあるのです。つらいことでも苦しいことでも、「体験」したことは、間違いなくその人の強みになります。」 高校生活の2/3をコロナとの戦いで過ごした皆さんに、希望をくれる言葉ではないでしょうか。

最後にもう一つ、本校東高の卒業生にぴったりの日野原先生の言葉を紹介します。曰く、「人生とは未知の自分に挑戦すること。」 厚木東高校はあと2年で新校に生まれ変わり、その名を変えます。皆さんは、厚木東高校の卒業生であることに生涯誇りを持ち、どんな苦難にあっても、「厚木東で挑戦！」のスクール・モットーを思い出して、何事もあきらめずに、挑み続ける人でいてください。

みなさんが、今後の人生において、まだ見ぬ素敵な自分自身を、何度も何度も再発見しながら、宝物のように大切な時間を、幸せに全うされますことを心から願って、お祝いの言葉といたします。卒業、おめでとう！



令和4年3月4日  
厚木東高等学校  
第35代校長 村越 みどり



卒業式に参加できなかった生徒や保護者の皆さんのために、74期生学年のグーグルクラスルームに期間限定で卒業式の様子を写した動画を掲載しています。ぜひご覧ください。

送辞も答辞も、各クラスの卒業委員を中心に生徒たちが皆で創りあげた「卒業記念動画」（式後に屋外各所で上映）も、全て最高の出来でした。



先輩方が御卒業されるのは寂しいですが、次は私たちが後輩たちの目標となるよう、厚木東高校の伝統をうなづいてまいります。

阪口 弦

在校生代表の言葉（送辞）



これから、今以上に自分で選択しなければならぬ場面が増えると思います。もし迷いがあったとしても、厚木東高校で過ごした三年間はきっと私たちの背中を押しつづけてくれる、信じています。

山本 拓

卒業生代表の言葉（答辞）

▶ ◀ 🔊 1:04:36 / 1:21:07



### 74期生担任団





ホームルームもそろそろ終わったところの職員玄関前の様子



式後のお帰り途中に、数か所のモニターに分散して、「卒業記念動画」を見ていただきました



式花（華道部）



式看板（記念写真スポット）

いのちとは君たちが持っている時間である。

人生には無駄というものは無いもの。しかし、後にならないと、その意味がわからないということがたくさんあるのです。つらいことでも苦しいことでも、「体験」したことは、間違いなくその人の強みになります。

人生とは未知の自分に**挑戦**することだよ。

日野原 重明先生のことばより

卒業に寄せて 令和4年3月5日